

非言語メッセージの5分類

1. 表象動作(エンブレム)
2. 例示動作(イラストレーター)
3. 感情表出動作(アフェクト・ディスプレイ)、
4. 言語調整動作(レギュレーター)
5. 適応動作(アダプター)



©ラーンフォレスト合同会社

1. 表象動作(エンブレム)

非言語メッセージの5分類

・ピースサインなどの、直接、言語に翻訳できるもの。野球では、捕手が投手にサインを送るための動作。

・意識的にせよ、潜在意識的にせよ、とにかく学習しなければ身につかないもの。

・国が異なるとジェスチャーが別の意味になる事がある。



©ラーンフォレスト合同会社

2. 例示動作(イラストレーター)

非言語メッセージの5分類

・言葉によるメッセージに付随し、そのメッセージを説明例証するもの。

・講演の際、テーブルを叩いたり、聴衆の方へ身を乗り出したりするのは、話している言葉を強調するための例示動作。



©ラーンフォレスト合同会社

3. 感情表出動作(アフェクト・ディスプレイ)

非言語メッセージの5分類

・顔の表情。また、顔以外のジェスチャーも重要な補助的メッセージを伝える。

・感情の表出は、表象動作や例示動作よりも自然発生的で人間の意識による規制はさらにおよびづらい。

・感情表出動作は、言葉によるメッセージを補強したり、増幅したり、また裏切ったりすることもある。



©ラーンフォレスト合同会社

4. 言語調整動作(レギュレーター)

非言語メッセージの5分類

・首を振ったり、うなずいたりする、相槌に相当するもので、話したことが聞き手に理解され受け入れられているかどうかを知らせるために必要な反応。発言権をスムーズに交代するための手段にもなる。

・うなずきのスピード、声の音量やスピード、視線を落とす軽く手を前に出す、腕組みなど。



©ラーンフォレスト合同会社

5. 適応動作(アダプター)

非言語メッセージの5分類

・反応を調整する動作や身振り。頭を搔いたり、鼻を搔いたり、無意識にやっている。メッセージ伝達の意図なしに行われるもの。



©ラーンフォレスト合同会社